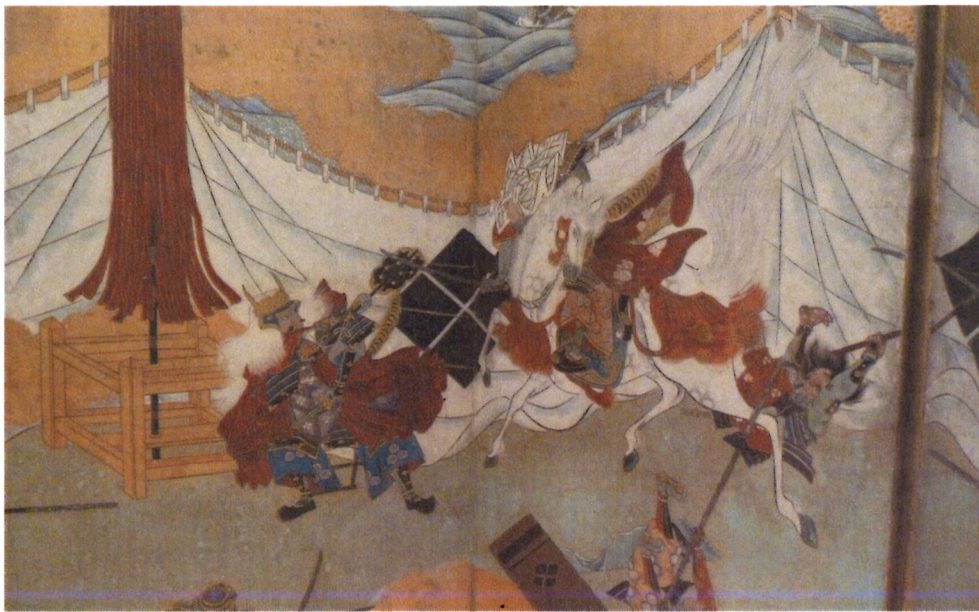


鈴かけ特報

発行
新潟市中央区学校町2番町
県立新潟中央高等学校
鈴かけ新聞部

魅力満載！ 川中島の戦い



上杉謙信と武田信玄の一騎打ち

9月16日、私たち新潟中央高校鈴かけ新聞部は『川中島の戦い』の展覧会取材のため、長岡市の新潟県立歴史博物館に足を運んだ。ここでは川中島の戦いを、上杉謙信と武田信玄の二人の関係性を掘り下げて紹介する。

2人には共通点があった！？



信玄が所用していたとする軍配

合の神を信仰していた。謙信の兜の前立が飯縄権現像なのは有名なところ。そして、どちらも軍配を手にして戦っていたということだ。川中島合戦図では、謙信は軍配を持っていないが、実際に使っていたとされる軍配が見つかっている。

川中島の戦いは、江戸時代に人形浄瑠璃や歌舞伎で広まった。それから様々な絵巻の題材となったり、謙信と信玄を紹介する書物が刊行されたりして、人々の間に広く知られるようになった。

しも同じ構図ではない。なぜ構図が一致しないのかという点、二つの軍記物語によるものだと考えられている。一つは信玄を中心に描かれた『甲陽軍艦』で、謙信の太刀を信玄が軍配で受け止めたという記述がある。

心に描かれた『北越軍記』で、両者ともに騎馬で川に入り、互いに切り結んだと記している。そのため、江戸時代から作られた作品の一騎打ちの場面の構造は、この二つのどちらかか、これらを混合させたものが多いのだという。

こんなものも展示してありました



① 上杉謙信の肖像画
② 伝 武田信玄の兜の肖像画
③ 伝 武田信玄が使用していたと伝わる兜

重要な役割を果たしていた馬。大変大きく、地位の高い人しか乗ることができなかった。

感想

今回の取材で、謙信と信玄の争いは実に深いと感じた。少し難しい内容となっていたが、2人の関係性はとても強かったことが分かった。

新潟県(越後)出身である上杉謙信と、山梨県(甲州)出身である武田信玄といえ、宿命のライバルとか、犬猿の仲だとかいう連想する人も少なくないだろう。そんな2人が北信濃をめぐる5回にわたり繰り返された『川中島の戦い』は、1553年から1564年の12年間にも及ぶ。

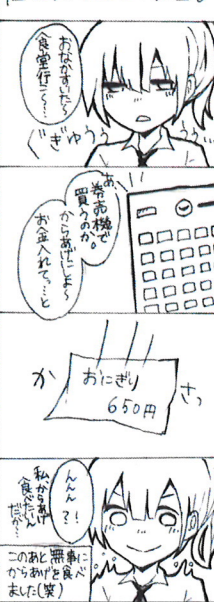


上杉謙信の肖像画

決して仲が良いとはいえない2人だが、いくつか共通点がある。まず、両雄は飯縄権現(いづなごんげん)という、信濃国上水内郡(現長野県)の飯縄山(現長野県)の飯縄山に対する山岳信仰が発祥と考えられる神仏習

今回の取材で、謙信と信玄の争いは実に深いと感じた。少し難しい内容となっていたが、2人の関係性はとても強かったことが分かった。

歴史博物館の食堂。



軍馬の骨(複製)